



# はじめに

---

あなたは、2050年にどんな暮らしをしていきたいですか？

移動や通信の手段がもっと便利になったら、決まった家に住むのではなくて、あちこちを自由に行き来して、もしかしたら、宇宙にだってエレベーターで簡単に行けるかもしれません。AIはますます発達して、仕事は全て代わりにテキパキ片付けてくれます。そんな姿に魅せられて、あなたの子どもは、ロボットと結婚するかもしれません。世界の人口が爆発的に増えて、食料の奪い合いになったら、栄養補給さえできれば、虫だってなんだって食べましょう・・・巷には、そんな未来予想図があるようです。

そんな未来の中で、私たちの”幸せ”は何なのでしょう？世の中が究極的に便利になっていったら、逆に人は、手間や時間をかけなければ実現できないことに、本当の喜びを見出すのではないのでしょうか。表紙は、それぞれの「2050年の未来予想図」を描くワークショップを開催して、1人1人の手で描いた未来予想図の一部です。

このコンセプトブックは、ワークショップでいただいたヒントをもとに、「私たちの暮らしが、森や木と関わったら、もっと幸せになれるのではないか」という願いをこめて、作成しました。忙しい毎日の中で森を訪れたり、便利な暮らしの中で木をつかったりすることは、ちょっと手間や時間がかかることです。でも、その「ちょっと」の先には、すごく幸せで、温かくて、心地いい暮らしに出会えるのではないかと・・・そんな気づきを与えてくれる、素敵な事例の数々をご紹介します。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちが当たり前で過ごしていた日常が、かけがえのないものであることに気づかされたように思います。そして、先行きが不確実であるからこそ、日々をていねいに暮らしていくことが、幸せな未来につながっていくのかもしれません。

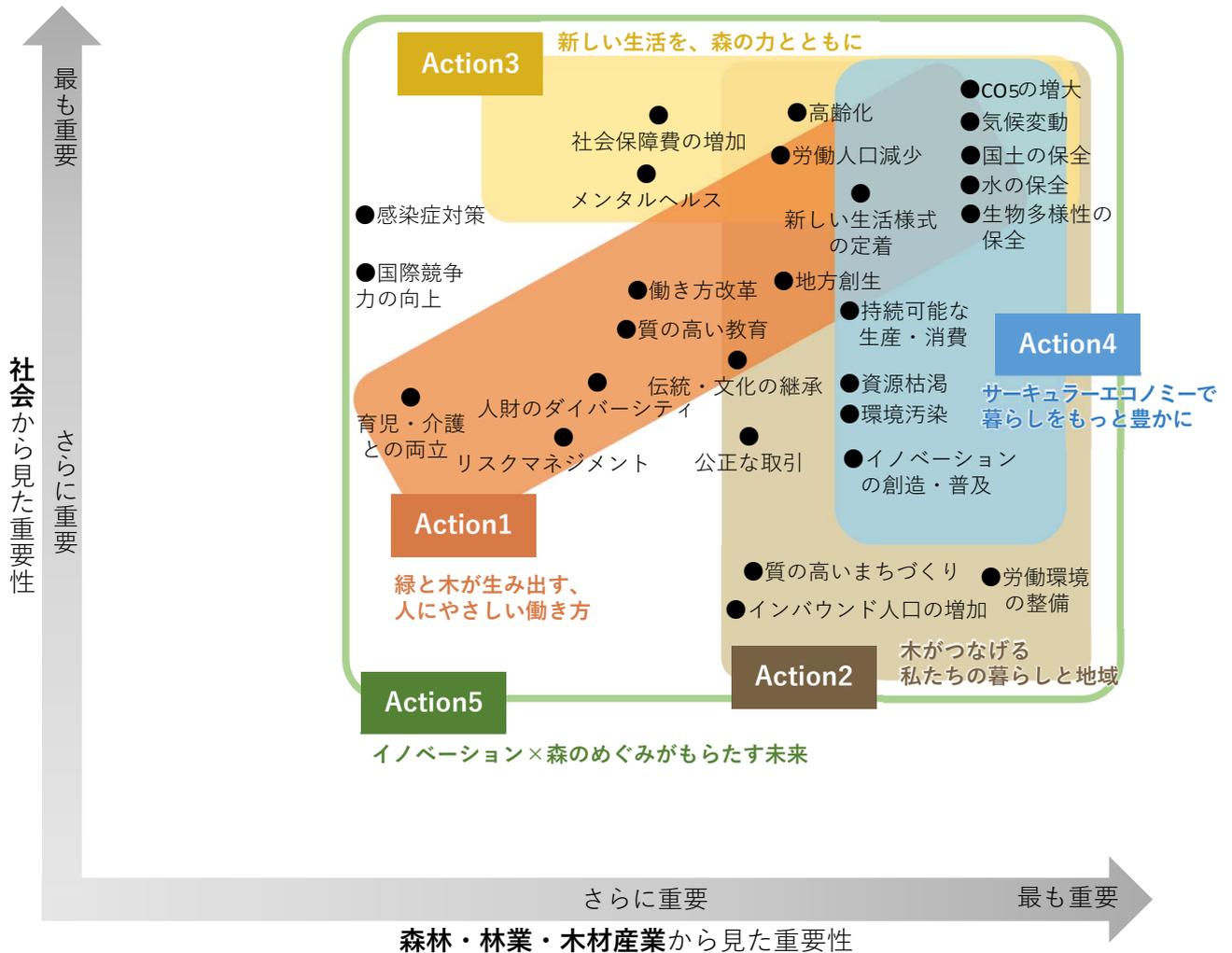
コンセプトブックを手にとってくださった方の心の中に、幸せの木が芽ばえるよう、願っています。

林野庁「森林×SDGsプロジェクト」メンバー

本コンセプトブックの内容は、林野庁の統一見解ではなく、「森林×SDGsプロジェクト」においてとりまとめたものです。

# 幸せな未来に向けた5つのアクション

コンセプトブックを作るに当たり、いま、私たちの社会において何が課題となっているのかを考えてみました。そして、その課題を乗り越えて、もっと心地よい暮らしを実現するために、森や木とどのように関わっていったらよいかを考えて、「幸せな未来に向けた5つのアクション」にまとめてみました。



## コラム：花粉の少ない森林をつくる

私たちの生活にも森林にも共通する課題と言えば、日本人の約4割が罹患していると言われる花粉症が思い浮かぶのではないのでしょうか。

花粉症の主な原因となるスギは、日本固有の樹種で、人工林の約4割を占め、ほぼ日本全国に分布しています。このようにスギが多いのは、日本人が古くからスギを木材として生活の中で活用し、スギの造林方法や利用技術を発展させてきたからです。昔も、今も、そしてこれからも、スギは私たちの生活に欠かせない大切な資源です。

一方で、花粉症の原因になっていることも事実。

そこで、花粉の少ないスギの開発・普及を進めています。中には全く花粉を飛散させない無花粉スギと呼ばれる品種も出てきています。また、スギだけでなく、広葉樹など多様な樹種による森づくりを始める地域もあります。花粉を飛ばさせないための技術の開発も進んできています。

将来、花粉症のない暮らしを実現したい。森林と社会を繋ぎ、よりよい未来に向けた取組が進められています。

# 私たちと森林のいま

## 私たちの暮らしとつながっている「森林」

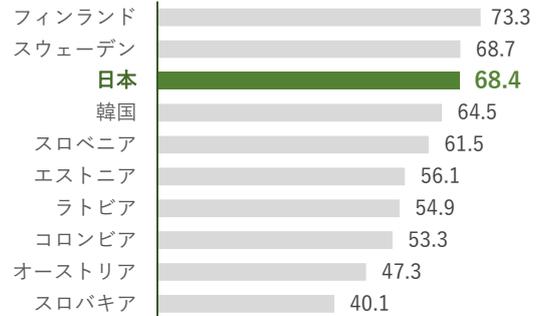
私たちが暮らす日本の国土の約7割は森林であることをご存じでしょうか。「森林」というと、屋久杉のような原生林を思い浮かべる方も多いと思いますが、日本の森林の約半数は、人の手で植えられた、スギやヒノキなどの「人工林」です。人が植えた人工林は、間伐などの手入れを適切に行わないと、土砂崩れなどの災害発生を引き起こしかねません。また、森林には、空気や水をきれいにしたり、CO<sub>2</sub>の吸収により地球の温暖化を防止したりといった、私たちの暮らしの環境をよりよいものにする働きがあります。森林のない都市部に住んでいたとしても、私たちの暮らしは、実は森林とつながっているのです。

## 未来に向けて「伐って、使って、植える」

日本の人工林の多くは、戦後から高度経済成長期にかけて、先人たちが植えたものです。木材が建築物や家具の材料として使えるようになるのは、植えてから約50年後。先人たちが植えた森林が、令和に入った今まさに、木材としての“旬”を迎えているのです。木を伐ることは環境に悪いのではないかとイメージを持つ方もいるかもしれませんが、人工林を伐って、その跡地に苗木を植えると、約50年後には再び木材として利用することができます（最近では30年ほどで成長する木の優等生、「エリートツリー」も開発されています。）。

また、木材は、プラスチックや鉄などと比べて、環境への負荷が少なく、あたたかみのある素材です。私たちが木を「伐って、使って、植える」というアクションを繰り返していくことにより、環境にも人にもやさしい社会を未来に引き継いでいくことができます。

## OECD加盟国の森林率（上位10位） （国土面積に占める森林面積の割合）



※Global Forest Resources Assessment 2020,FAO  
※OECD加盟国は37カ国（2020年7月現在）

## 木材としての利用期を迎えた人工林の割合



※林野庁「森林資源現況調査」より。50年生以上を「木材としての利用期を迎えた人工林」とし、全人工林面積に占める割合を算出。

## 森林資源の循環「伐って、使って、植える」



# 目次

---

## 01 はじめに

## 02 幸せな未来に向けた5つのアクション

## 03 私たちと森林のいま

## 05 Action1 緑と木が生み出す、人にやさしい働き方

(株)パーク・コーポレーション parkERs (パークーズ)、三菱地所レジデンス(株)・三菱地所ホーム(株)  
(株)良品計画、アムニモ(株)、オフィスキャンプ東吉野

## 09 Action2 木がつなげる私たちの暮らしと地域

スターバックス コーヒー ジャパン(株)、パワープレイス(株)、(株)竹中工務店、縁樹の系

## 13 Action3 新しい生活を、森の力とともに

(株)フプの森、(株)ブルックスホールディングス、(株)インザパーク、フォレストデジタル(株)

## 17 Action4 サークュラーエコノミーで暮らしをもっと豊かに

(株)アキュラホーム、新政酒造(株)、(株)家's、東京大学生産技術研究所・(株)バイオアパタイト・大野建設(株)

## 21 Action5 イノベーション×森のめぐみをもたらす未来

(株)田子の月、(株)ラ・ルース、大王製紙(株)、三菱鉛筆(株)、オンキヨー(株)、アイコンポロジー(株)、(株)RBP、  
星光PMC(株)・(株)アシックス、(株)光岡自動車、日本製紙(株)、(株)大林組、住友林業(株)、  
(株)竹中工務店、三菱地所(株)、清水建設(株)、野村不動産(株)、ヒューリック(株)

## 25 私と森をつなぐ40のアクション

### 企業の7つのアクション

## 27 2050年の未来予想図を描く・おわりに